2027 年度　川崎市立井田病院　（病床数　３８３）【1年次】

受入人数	【1年次】2名

常勤・非常勤	研修手当						勤務時間	休暇				当直/月	宿舎	社会保険・労働保険等
	基本手当		賞与		時間外	休日		有給		夏季	年末年始			
	1年次	2年次	1年次	2年次				1年次	2年次					
常勤	381,305		1,066,639		有	有	8：30～17：15	10		有	有	４回程度	有（単身者用） ※空き状況による	健康保険、厚生年金、雇用保険、労災加入

○ 研修診療科（必修科目）について

科目	研修内容（手技・症例数・指導医数等）
内科	基本的な診療手技、知識、態度を身につけるために内科の領域を幅広く研修することにより、医師にとって各診療科に共通する基本的診療事項を身につけます。 研修計画としては、一般内科診療、呼吸器疾患診療、消化器疾患診療、腎臓・内分泌・代謝疾患診療、膠原病疾患診療、循環器疾患診療、緩和ケア内科診療としており、このほか、各病棟カンファレンス、抄読会・症例検討会、新入院カンファレンス、各科カンファレンス、CPC（年6回）を実施しており、その他学会・研究会発表も積極的に行っています。 主な手技・症例としては、心臓カテーテル検査 159例、経皮的冠動脈形成術 66例、ペースメーカー手術 44例、血液透析導入（CAPDを含む）17例、血液透析・急性血液浄化療法 4,149例、腎生検 17例、気管支鏡 22例でした。また、外科と共同で行っている上部消化器内視鏡 2,173例、下部消化器内視鏡 755例で、内視鏡治療（EMR・ESD等）は656例です。なお、指導医は16名体制です。
救急科	1. 市立井田病院救急センターは周辺地域で軽度から中程度の病気や外傷に対応します。 2. 終末期医療での救急対応では、苦痛を軽減しながら治療を行う視点での救急診療を心がけています。 3. 2次病院でありながら、救急医がERを支援し、内科系だけでなく外傷や中毒などの初期治療を行います。 4. 市立井田病院は優れたERを持ち、救急患者の初期治療を行い、診断と初期治療で患者を安定させ、適切な医療部門や専門施設に繋ぎます。 5. 時間外でも、検査技師、放射線技師、薬剤師が24時間対応しており、緊急内視鏡や緊急手術にも対応しています。 6. 内科系を中心とした中規模の病院ですが現在、約3,000人の救急搬送される方々を受け入れています。
外科	プライマリーケアに必要な外科の基本的知識、技能、態度の修得を中心としています。 研修計画は下記のとおりとなっています。 1. 午前中、病棟回診後、手術室（月、水、金）、内視鏡、超音波、X線検査室（火、木）にて研修を行い、このほか、指導医のもと、病棟、外来にて研修を行います。 2. 患者の主訴、現症などから適切な検査を選択し、正しい判断に導く技能を身につけます。 3. 術前・術後の全身管理や状態の変化などを適切に捉え、対処できる技能を身につけます。 4. 病棟カンファレンス（週1回）、キャンサーボード（週1回）、縫合実習（年1回）、CPC（年6回）に参加し、プレゼンテーションを行います。また、学会・地方会など研究会発表、論文投稿も行っています。 主な手技・症例としては、食道癌 4例、胃癌 19例、結腸・直腸癌 98例、乳癌 163例、肝切除術14例、腹腔鏡下胆嚢摘出術 63例、ソケイヘルニア 59例などとなっており、指導医は15名体制となっています。
小児科	
産婦人科	
精神科	
一般外来	内科及び外科の履修時に、1週間の内、内科は週2-3単位、外科では週1単位（1単位は半日分相当）、指導医または上級医の担当する一般外来において患者の問診、身体所見から症候・病態について臨床推論を行い、鑑別診断を挙げ、適切な検査を行って確定診断に至る経過を学び、その指導監督の下学んだ過程を自ら実践します。さらに診断した患者の慢性期の病状を評価し安定した状態を維持管理する方法を指導医または上級医の診療を通じて理解し、身に付けることを目標とします。

必修科目の研修ができない場合、選択可能な診療科

○研修アピール

当院は小高い丘の上に立地し、周囲を多くの木々が囲み、院内はボランティアの方々によって手入れされた四季折々の花々が絶えず咲き誇っています。何かと気忙しい研修医生活ですが、暖かい日射しの下、自然豊かな環境に身を置くと心が和みます。また、2015年3月に新棟が完成し、救急センター、内視鏡センター、化学療法センター、透析センターの機能を充実しました。

診療では、結核を含む呼吸器疾患、消化器内視鏡、腎泌尿器疾患、救急医療、がん終末期の緩和ケア、在宅医療を中心に成人疾患に対して専門性の高い医療を提供しています。なお、当院では臓器別センター制を導入しています。

臨床環境では、経験豊富な専門医が多く、みんな、研修医教育に熱心で、日々の診療を通してマンツーマンに指導します。研修医も1学年5名と少ないため、経験する症例に恵まれ、手技に携わる機会も多くあります。院内講習会やカンファレンスによる教育体制に力を入れています。図書室機能も充実しています。日々の業務だけでなく知識の習得や診断のプロセスを重視した研修環境を目指しています。

初期臨床研修は医師としての出発点であり、この2年間があなたの将来の医師像を決定するといっても過言ではありません。当院の臨床研修を通して、温かい心を持って患者にやさしい手を差し伸べる、そして確かな技術を提供できる医師への第一歩を共に踏み出そうではありませんか。

○研修医からのメッセージ

井田病院は、病床数及び医師スタッフ数が適度であり、数多くの症例の診療に携わることができるばかりでなく、多種の手技を経験する機会に恵まれています。実際、この1年間で数多くの手技を学び、習得することができました。また、井田病院には緩和ケア病棟があり、緩和ケアを専門とする先生方も複数いらっしゃいます。シリーズ構成の緩和ケア講習会も開催されており、緩和医療を様々な側面から学ぶことができます。同期の人数が多くない、という点は、人によってはやや寂しく感じたりする場合もあるかもしれませんが、逆に言えば、大学病院などの大規模病院では、初期研修医が決して任せてもらえないような手技を経験する機会に恵まれながら、数人の研修医とともに、アットホームな雰囲気の中、楽しく研修することができると思います。このような魅力ある井田病院での研修を、是非検討してみてください。

以下、慶應義塾大学病院から研修医への注意事項

・外科研修はその他の外科系の診療科への振り替えは認めません。
・必修科目がある病院では、必ず必修科目を研修してください。振り替えは認めません。

研修実施責任者　西尾　和三

※問い合わせ先

担当部署・担当者名：庶務課労務研修担当　奥

住所：　神奈川県川崎市中原区井田2-27-1

TEL：044-766-2188

E-mail：83idakyo@city.kawasaki.jp